「ちんぷんかんぷん」感想文

あーるず太郎

このお話は、はじめにまとめが書いてあります。

「これは、オランダのアムステルダムという町をおとずれた、一人のわかいドイツの職人が、とほうもなくきみょうな回り道をしながらも、思いちがいがもとで、真理をさとったという話であります。」

まず、「きみょうな回り道」と「思いちがい」について説明します。

はじめに、わかいドイツの職人は、アムステルダムの町で大きくてりっぱなお屋敷と出会います。その大きな屋敷は、ちんぷんかんぷんさんのお屋敷だと思いちがいをしてしまいます。

わかいドイツの職人は、「ちんぷんかんぷんさんというのは、こいつは、とてつもない金持ちにちがいないわい」

20 × 20